

平成 30 年 8 月 31 日

各 位

住友別子病院  
院長 鈴木 誠祐

内視鏡手術用支援機器「ダビンチ」導入および  
DSA（血管造影）装置 2 台稼働体制について

このたび、当院では、高度先端医療機器を以下のとおり整備致しましたのでご案内申し上げます。

1. 内視鏡手術用支援機器「ダビンチ」導入

米国インテュイティブサージカル社が開発した内視鏡を用いた腹腔等の手術を支援する機器「da Vinci（ダビンチ）」を導入しました。

東予地区で初めての導入であり、第 4 世代「da Vinci Xi Surgical System」となる最新モデルであって、愛媛県内でも最新鋭の機器となります。

「ダビンチ」による手術では、ロボットアームを用いて鉗子を操作することになります。

執刀医は、司令塔とも言える「サージョンコンソール」において、3D内視鏡で捉えた立体画像をステレオビューワで確認しながら、ロボットアームを遠隔で操作します。

通常の内視鏡下でポートに挿入された鉗子は、先端が開閉する機能のみを有しますが、「ダビンチ」では、それに加えて先端付近が人間の手の関節のように自在に曲がり、可動域が拡大されるため、人の手と同様またはそれ以上の動きを再現することが可能となります。

また、従来の内視鏡の画像は、2次元が主流ですが、「ダビンチ」では、前述のとおり、3次元となり、奥行きの確認に欠かせない立体画像に加え、手振れの少ない、拡大された情報が得られます。

「ダビンチ」は、正確かつ安全な手術には欠かせない機器となりつつあり、近年、保険適用の範囲も拡大されています。

当院では、直腸、腎、膀胱、前立腺のがんを対象とする手術での使用を計画しており、9月の初臨床を予定しており、現在、説明会やトレーニングを開催、実施しています。（資料 1、資料 2 参照）

2. DSA（血管造影）装置 2 台稼働体制

病院棟南側に DSA 棟を増築し、9月5日（水）よりバイプレーン装置と Angio-CT 装置の DSA 2 台体制に増強します。DSA とはデジタルサブトラクションアンギオグラフィ（Digital Subtraction Angiography）の略でデジタル差分血管造影法という撮影方法です。

今回稼動となるバイプレーン装置は、循環器系の検査と治療に用いる2つの撮像装置を搭載したシステムで、一度に2方向(正面・側面)から撮影を行うことができます。これにより立体的に血管走行を観察でき、短時間で高効率な診断・治療が可能です。

これを機に、循環器領域の急性期医療をより充実させ、冠動脈治療だけでなく不整脈のカテーテル治療も行う予定です。

一方のAngio-CT装置はIVR-CTとも言われ、血管撮影装置と80列CT装置を組合せたシステムで血管造影の撮影だけでなく血管から治療を行うことを目的としています。血管撮影装置とCT装置を同室に設置することにより、術中の血管撮影室とCT室との移動が必要なくなり、検査時間の短縮と患者さんの安全性向上を実現しました。

両装置とも最新鋭の機種で最新の画像処理技術により従来よりも詳細な血管の形状・流れや3D画像が短時間で撮影・確認可能です。

また、従来装置に比べ少ないX線量で撮像可能ですので、患者さんの医療被曝低減にも貢献するシステムです。(資料3参照)

当院は、急性期中核的医療を提供する総合病院として、また地域がん診療連携拠点病院として、将来に亘ってより質の高い医療を提供し、地域医療に貢献してまいります。

今後ともご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上

(問い合わせ先)

医療法人住友別子病院 総務人事課 石川 TEL: 0897-37-7111